

Cr^T 全クロム

発色：無色→淡赤→赤→赤紫

測定原理：酸化とジフェニルカルバジド法

測定範囲：0.05 ~ 1.50 mg/L (ppm)

試薬：Cr-RA R-1 (滴ビン)、R-2 (滴ビン)、R-3 (滴ビン)、WAK-Cr⁶⁺ チューブ

特殊用具：ピーカー、加熱具一式

測定時間：チューブに吸い込み後 2分

セル：専用カップ

使用波長：542 nm, 580 nm, 670 nm

前処理方法

以下の手順に従って前処理を行なってください。

1. 検水をピーカーに15mL 採り、R-1 試薬を5滴加えます。(図1)
2. 検水を軽く沸とうする程度に加熱しながら、かきまぜても淡く赤紫色が残るまで、R-2 試薬を加えます。(図2)
3. 加熱を止め、R-3 試薬を1滴加え、淡い赤紫色を消します。赤紫色が消えなければ、さらに R-3 試薬を1滴加えます。(図3)
検水の量が減った場合は、純水を加えて15mL にしてください。
4. ピーカーの検水を15 ~ 30℃まで冷まし、専用カップに1.5mL(線まで) 採ります。(図4)
以下の「測定方法」に従って、測定してください。

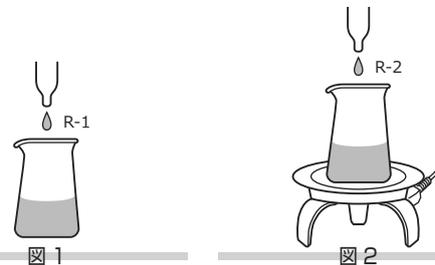


図1

図2



図3

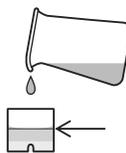


図4

測定方法

1. 【Cr^T】を押します。
2. 【決定】を押し、測定画面に切替えます。
3. 前処理済みの検水の入った専用カップをセルボックスに入れ、【0調】を押します。(図5)
4. パッケージのチューブに、専用カップの検水を全量吸い込み、同時に【測定】を押します。(図6)
5. 4. のチューブを軽く5 ~ 6回振り混ぜて、すぐに専用カップにチューブ内の測定液を静かに戻し、セルボックスに再びセットし静置します。(図7)
6. 経過2分後に濃度が自動表示されます。



図5



図6

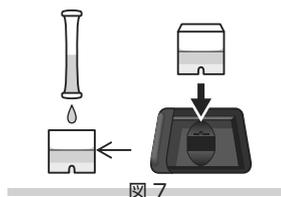


図7

注意

この方法では、3価クロム (Cr³⁺) と6価クロム (Cr⁶⁺) をあわせた全クロムが測定されます。

共存物質の影響

内蔵の検量線は、標準液を用いて作成しています。他の物質の影響が考えられる場合は、公定法と比較するか、標準液添加法により測定値を確認してください。共存物質の影響は6価クロムの測定に準じます。詳細は「Cr⁶⁺ 6価クロム」の項目をご参照ください。

試薬に関するお知らせ

試薬に同梱の紙をご参照ください。

R-1 試薬および測定液は pH2以下です。